



○女子学生提案

八月二十四日、岐阜女子大学の学生さんたちから「伝統を生かした思いやりのまちづくり」というテーマで提案をいただきました。会場の笠松中央公民館では、町の活性化をめざすNPO法人「元氣きそがわ」の皆さん、広江町長はじめ役場の関係者、「道徳のまち笠松」の委員、推進委員など関係者三〇名ほどが提案に聞き入りました。

○笠松、とんな町！

今年四月、学生さんたちは笠松の町中を訪れました。かつては、笠松陣屋があり美濃地方の政治・経済の中心地として栄え賑わった笠松。今では、さほどの賑わいは感じない。しかし、丁寧に挨拶をしてくれる人々、お店の人

と立ち話をしている様子にふれると、何か人の温もりを感じ、落ち着きと安らぎを感じるという。

○笠松のもつ味を生かす！

伝統を生かした 思いやりのまちづくり



彼女たちは、「人々の協力で、こうした古いものをそのまま生かした町づくりをし、笠松に来ると心が落ち着き、快い」という雰囲気をもつた町にできないかと考えました。町に暮らす人々の心を大切に、町づくりの意欲をかきたて、活力ある町にしたい。この伝統をもつ町が誇りをもち生きがいのみなざる町になってほしいと。

○NPO法人「元氣きそがわ」と共に

「道徳のまち笠松」でアピールされた「笠松人のこころ」を生活や仕事の

で生かし育むには、具体的な取り組みの提案が必要だと彼女たちは考えました。

そこで、笠松の地産品づくりをまず提案。笠松の食文化を生かした新たなお菓子「まるごと枝豆八つ橋」と笠松競馬の馬蹄をヒントに「パカパカだんご」を提案いただきました。面白そうだ。実際に作ってみてはどうかの声に押しされ、NPO法人「元氣きそがわ」のみならずと一緒に挑戦することになりました。



紙粘土で作った団子とお菓子の模型を前に提案する学生さん